

少林寺気功と秘伝の絶技とは？



釋永信

シー・ヨンシン 1965年生まれ。安徽省阜陽市潁上県出身。中華人民共和国の高山少林寺の第30代住職。永信は法名。号は皖穎。俗姓は劉氏。現在は河南省仏教協会会長で、中国仏教協会副会長も務めている。1981年、15歳で高山少林寺の住職釈行正のもとで具足戒を受け師事する。1987年、曹洞宗第47代、永化堂上第33代の法嗣となる。1999年8月、少林寺住職に当選。2009年6月11日、第三批国家級非物質文化遺産「少林功夫」の代表性传承人に選ばれる。全国人民代表大会第9回、第10回、第11回、第12回代表。

全日本少林寺気功協会
秦西平会長



中国武術の総本山・高山少林寺のトップ、釋永信第三十代管長が、少林寺奉法創始70周年を祝うため、本年2月に来日された。この機会に、全日本少林寺気功協会、秦西平会長の特別な計らいにより、釋永信管長へのインタビューがホテルニューオオクラの3室にて実現！高山少林寺に伝わる「武術・内功・気功」そして、「秘伝」について、話をうかがうことができた！

文◎全日本少林寺気功協会事務局 取材・構成◎本誌編集部

については、映画などを通して世の中に浸透していますね。また禪も武も歴史がありますから、皆さんすでにご存知です。「氣」というものについては、やはり昔は内面について理解している者が少なく、また、それを外部に伝えることとなるとさらに少なかったのです。しかし現代になると禪と武の広がりにより、「少林寺気功」も広がりつつあります。特に現代社会では、武と禪と同時に、

「少林寺気功」は人類の健康に役立ちます。先進国の人々は「健康」に対して意識が高いです。そしてどんな方法で「健康」になれるのかを常に模索しています。このテーマは永遠ですが、「少林寺気功」は少林寺の健康法として、あらゆる人の役に立ちます。秦西平 確かにそうですね。「少林寺気功」は昔、内功で武術と禪の修行だけでしたが、だんだん独立のシステムとして、中国国内にとどまらず、日本にも広まっています。これまで開催し

てきました「少林寺健康世界大会」でも「少林寺気功」は、すでに多くの方に認知されています。特に東京では、いろいろな健康法（氣功法）の中でも「ブランド品」としての立場で同業界からも認められています。Q 「少林寺気功」は、今後世界からどのように注目をされますか？ 釋永信 これから平和の時代がどんどん続いて行く中で、人間は精神と身体に健康にますます意識して向上させよ

うとします。少林寺は千五百年の歴史がありますから、「禪」と「武」を土台として、少林寺の氣功法は、昔のように武の達人のための練習だけでなく、また禪の修行の手段だけでなく、健康法や能力開発にも、さらに現代人の修行法としても「少林寺気功」の活躍が期待されているのです。これはとても明るい将来、世の中に大変役立つものと思います。

釋永信管長が語る！ 少林寺秘伝の絶技

「少林寺秘伝の技」とは、師匠と弟子とのごく限られた範囲でのみ伝承される技です。これは少林寺内で長く続いた専門訓練の技術であり、他人にはできないレベルの技なのです。

そして「秘伝絶技」は、隠れて練習するので「悶功」とも言われます（※悶功とは、隠れた内攻（氣功）による技のこと）。そのため、ある人（弟子）の絶技練習は師匠も知らないことがあります（私が練習した絶技は、前管長も知らないところもあるのです）。

絶技の練習者は、一生をかけて練習します。しかし一生のうち、実戦で使うのは、一回あるかどうかです。これは危ない時や命を守るときのみ使用する技ですから。

なお、絶技を使う武術の達人は、千の技をたくさん、しかし浅くできることより、一つの深い技が特技であると、歴史が証明してきました。また秘伝である絶技は、現代の競技武術の技術とは完全に異なります。現代に行われる試合の中には「無い」のです。なぜなら、試合は団体あるいは専門の人が、相手の技術を研究した上で、公開して行っているものだからです。しかし絶技は違います。絶技は、たとえば「回馬槍」は不意に後ろから急に刺す槍の技といったものであり、一つの技で相手を抑えることができる類のものなのです。



(左) 釋永信管長が振るう少林寺特有の磨杖。

(下) 取材の合間、本誌を手に取り、日本の「秘伝」に目を通す管長。



(上) 高山少林寺で開催された「世界伝統功夫養生大会」にて、集団外氣功を行う秦西平会長。

少林寺 <http://www.shaolin.org.cn/>
全日本少林寺気功協会（高山少林寺 東京連絡事務所） TEL03-6273-8889
info@shaolin-temple.jp <http://www.shourinji.net/>